

越境人

2016 SPRING vol.13

コリア国際学園 広報誌

特集1 人工知能(AI)時代と国際バカロレア

特集2 第6期卒業生インタビュー

黄潤泰くん（慶應大学 法学部）

金棕炫くん（立命館大学 国際関係学部）

李庚鎬くん（横浜市立大学 国際総合科学部）

姜尚潤くん（同志社大学 グローバルコミュニケーション学部）

・新任教員紹介

都裕史先生（社会科担当）

金兌恩先生（理科担当）

康玲子先生（日本語科担当）

近藤富男先生（日本語科担当）





デザイン:尹 浩子

2 特集1 人工知能(AI)時代と 国際バカロレア

6 特集2 第6期卒業生インタビュー

黄潤泰くん（慶應大学 法学部）
金棕炫くん（立命館大学 国際関係学部）
李庚鎬くん（横浜市立大学 国際総合科学部）
姜尚潤くん（同志社大学
グローバルコミュニケーション学部）



越境人 2016年春 第13号
・発行日 2016年5月31日
・発行 株式会社コリア国際学園
〒567-0057 大阪府茨木市豊川2丁目13番35号
TEL:072-643-4200 FAX:072-643-4400
E-mail:contact-school@kis-korea.org http://www.kis-korea.org/

※越境人は年2回の発行です。※本誌記事を無断で転載等する事を禁じます。



DAIGEN Co.,Ltd.

株式会社ダイゲン 代表取締役社長 梅村忠幸

〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1丁目14番1号
TEL:06-6943-0081(代) FAX:06-6943-6370

[パチンコ事業] 第元観光(株)

- プレジール 森ノ宮店
- プレジール 若草店
- プレジール 玉串店

[介護事業] ケアーズ・サポート(株)

- 訪問介護 しあわせサポート
- 高齢者支援住宅 なごみの家

[飲食事業] (株)ブレイクスルー

- 和食居酒屋 萌蔵
- 九州料理 のぼせもん
- バール ジョルナータ
- ベジ畑カフィ 小町
- 酒とアテ 小町
- 炭火酒場 力虎

[レンタルホール] (株)ビューティフルライフナビ

- 森ノ宮ホール



建学の精神

境界をまたぐ「越境人」に。

21世紀の国際社会は、グローバル化と情報化が加速する一方で、政治・経済・社会・文化のあらゆる面において、解決すべき人類共通の課題にも直面しています。とりわけ東アジアは、その集約的な地域のひとつとしてダイナミックな変化が予見される歴史的な転換期にあります。

こうした時代状況を未来に向けて切り拓いていくためには、なにより個性と多様性の尊重を基礎とした創造力の溢れる人間が求められています。言い換れば、柔軟な発想と幅広いコミュニケーション能力を兼ね備え、問題解決能力に優れた人間の育成にほかなりません。

コリア国際学園 (KIS) は、在日コリアンをはじめとする多様な文化的背景を持つ生徒たちが、自らのアイデンティティについて自由に考え学ぶことができ、かつ確かな学力と豊かな個性を持った創造的人間として複数の国家・境界をまたぎ活躍できる、いわば「越境人」の育成を目指します。

コリア国際学園 (KIS) は、すべての教育活動を通じて相互の信頼と協同を深め、地域社会に根ざし、コリアにつながり、世界に開かれた国際学校として、世界と東アジアの持続可能な発展に貢献します。

教育理念

多文化共生

民族的アイデンティティと自尊感情を育むとともに、多文化共生社会の実現に向けた知識、技能、態度を身につけた人間を育成する。

人権と平和

人間の尊厳と民主主義を尊重し、世界平和を希求する普遍的価値を創造するとともに、地球的視野を持ち、持続可能な社会の構築に貢献できる人間を育成する。

自由と創造

真の自由を理解し、豊かな個性と多様性を基礎とした創造力の溢れる人間を育成する。

◆ 校章・シンボルマーク ◆



目であり
宇宙であり
太陽であり地球であり
そして みつめていて、考えていて
そして いつも ゆれている

◆ デザイン・文 ◆

黒田 征太郎 Seitaro Kuroda
(イラストレーター)

くろだ・せいたろう ● 1939年大阪府生まれ。
'92年にNew Yorkへ移住。イラストレーター
としてポスター、挿し絵で数々の賞を受賞す
るとともに、壁画制作、ライブペインティング
など幅広いアーティスト活動を展開。
コリア国際学園の発起人のひとり。

◆ コメント ◆

色は 中心が 赤 (火) (光)
その外が 黄 (アジア)
その外が 草色 (地)
その外が 青 (天であり水)
としました

人工知能(AI)と人間は協力関係だろうか、ライバル関係だろうか。その未来は予断を許さない。



▲人工知能(AI)と人間は協力関係だろうか、ライバル関係だろうか。その未来は予断を許さない。

2013年、オックスフォード大学から注目すべき報告が出た。今後20年のうち、AIの発達によって、無くなる可能性の高い職業が発表された。そのリストを見ると、ちょっと驚くような職業が含まれている。会計士の94%、プログラマーの48%、経済学者の43%、裁判官の40%が職を失うというのである。工場労働者が消えるだけではない。AIの威力は、みんなが羨望するような職業にも及ぶという事実にこそ実感される。すでに一部の投資会社では投資分析をAIに依存しているといふ。

苦労して経済学部や法学部、工学部に入つて資格を取つても就職が保證されたものではない。なぜなら、裁判所のAIロボットにはあらゆる法律知識と判例が入力されており、どの賢い裁判官に比べても知識の量では圧倒的な優位を誇るからである。最も専門性の高いとされる職業でない夥しい数の人間を社会から退出されることである。AIはこれまでの技術の進歩とはまったく次元の違う新事態である。AIは人間の知能をさらに強化してくれるパートナーになるのかも、それとも機械の知能に追いつけない夥しい数の人間を社会から退出させる脅威になるのか。これから世界はどうのように変化を遂げていくだ

うことである。AIはこれまでの技術の進歩とはまったく次元の違う新事態である。AIは人間の知能をさらに強化してくれるパートナーになるのかも、それとも機械の知能に追いつけない夥しい数の人間を社会から退出させる脅威になるのか。これから世界はどうないように変化を遂げていくだ

うことである。AIはこれまでの技術の進歩とはまったく次元の違う新事態である。AIは人間の知能をさらに強化してくれるパートナーになるのかも、それとも機械の知能に追いつけない夥しい数の人間を社会から退出させる脅威になるのか。これから世界はどうないように変化を遂げていくだ

人間に本当に必要な知能

2013年、オックスフォード大学から注目すべき報告が出た。今後20年のうち、AIの発達によって、無くなる可能性の高い職業が発表され

た。そのリストを見ると、ちょっと驚くような職業が含まれている。会計士の94%、プログラマーの48%、経済学者の43%、裁判官の40%が職

を失うというのである。工場労働者が消えるだけではない。AIの威力は、みんなが羨望するような職業にも及ぶという事実にこそ実感される。すでに一部の投資会社では投資分析をAIに依存しているといふ。

苦労して経済学部や法学部、工学部に入つて資格を取つても就職が保証されたものではない。なぜなら、

裁判所のAIロボットにはあらゆる法

律知識と判例が入力されており、ど

うことである。AIはこれまでの技術

の進歩とはまったく次元の違う新事

態である。AIは人間の知能をさらに

強化してくれるパートナーになるの

かも、それとも機械の知能に追いつけ

ない夥しい数の人間を社会から退出

させることである。AIはこれまでの技術

の進歩とはまったく次元の違う新事

態である。AIは人間の知能をさらに

強化してくれるパートナーになるの

コリア国際学園は2017年度の高等部2年生から国際バカロレア(IB)の教育課程を導入すべくその準備を進めている。IBはグローバル化していく世界に生きる学生の「生きる力」を育てる教育プログラムとして注目を集め、日本政府も積極的にその導入を推奨し、大学入試でもIB入試の設置を勧奨するなど後押ししている。

以下では、少し視点を変えて、近未来に実現する人工知能(AI)時代と関連して、IB教育の有効性を考えてみる。



▲人工知能の開発競争がしのぎを削る。すでに人間の知能を超えたとされるが、それはどの部分の知能なのか。

無人自動車が近い将来、登場する。もはや運転はコンピューターにお任せ。搭乗者は向かい合って座り、車内で会議や勉強会もできる。その代わり、運転手の多くは職を失うかも知れない。ここ数年、このようないわゆる人工知能(AI)時代の到来を告げるニュースを時々耳にしている。AIの時代が本格的に始まる10年後、20年後になると、今ある仕事の半分以上は機械に取られてしまうというような専門家の不吉な予想も聞いている。すごい時代になってしまったなど、なんとなく思つてはいた。それでも実感は湧いてこなかつた。

そこへ、である。2016年3月、グーグルの「アルファ碁」というAIプログラムが、囲碁の世界王者イ・セドル9段との5番局を4対1で制したというニュースが飛んできた。前評判では、AIがいくらビッグデータを集め、ディープラーニングで強化されたとはいえ、人間の作ったゲームの中で最も奥の深い囲碁で人間に勝つのはまだ早いというのが大勢であった。なんと囲碁の手は 10^{360} もあるので、まさか負けるものかと。

しかし、イ・セドルの敗北は、ほかの弱い目や手足を強化し、他の動物を使つて、機械を発明して、自然界的に地位を高めてきた。人間より力の強い動物は多くのいる。人間は、優越なのはその知能によるものである。それ故、知能は人間だけの固有の特性であると、固く信じられてきた。頭を使って、機械を発明して、自分の弱い目や手足を強化し、他の動物を上回る力と速さを手に入れできた。つまり、人間が他の動物よりも優越なのはその知能によるものである。頭を使つて、機械がついに出現したといふ。しかし、イ・セドルの敗北は、ほかの弱い目や手足を強化し、他の動物を使つて、機械を発明して、自然界的に地位を高めてきた。人間より力の強い動物は多くのいる。人間は、優越なのはその知能によるものである。それ故、知能は人間だけの固有の特性であると、固く信じられてきた。

しかし、結果は人間側の惨敗。「まさか」という油断は当惑と失望、そして機械への恐怖に変わつていった。

人間は技術を発展させて、自然界

人工知能(AI)時代と国際バカロレア

昨年、『学生に賃金を』（栗原康、新評論）という本が出版された。大学と大学院を出た著者に残ったのは幸せではなく635万円という多額の借金。日本のテーマは日本の大学の学費があまりにも高すぎる現状と、奨学金という名の借金による学生の苦境を分析し、学費無償化と賃金の支払いを要求するというものである。

実はヨーロッパでは当たり前の主張である。韓国では、3年前の大統領選挙で大学学費の半額化が大きな争点となつた。「泣く子に餅をもう一

政治する力

の結果、IB教育を受けた学生は、大學に入る時点で、普通の教育を受けた学生と比べ、知識の量では劣る可能性がある。それでも学生の興味関心に寄り添つて、それを掘り下げる力を勧める。また受動的に教師の教えを飲み込むことだけに慣れ難しさを覚えるかも知れない。しかし、大学で本格的に研究を進められる力を身につけている。さらに、大学を出て、生涯学び続ける力を備えていることが期待される。

昨日、『学生に賃金を』（栗原康、新評論）という本が出版された。大学と大学院を出た著者に残ったのは幸せではなく635万円という多額の借金。日本のテーマは日本の大学の学費があまりにも高すぎる現状と、奨学金という名の借金による学生の苦境を分析し、学費無償化と賃金の支払いを要求するというものである。

実はヨーロッパでは当たり前の主張である。韓国では、3年前の大統領選挙で大学学費の半額化が大きな争点となつた。「泣く子に餅をもう一

さて、オックスフォードの同報告書では逆に、代替率の低い職業も提示されている。小学校教員0.4%、社会福祉士0.3%、心理治療士0.2%などである。これらの職業の共通点は対面職業だという点だ。データを分析して判断するのではなく、人に直接会って、耳を傾け、共感するという仕事である。AIといつても、人に対する分野では限界が露呈される。

これらの職業は今までの物差しでは専門性が低く、報酬も少ない。しかし、我々人間が機械と違う点は、その知能ではなく、やはり人間らしいことがあるということをいみじくも言っている。他人の悲しみに共に当たっている。他人の悲しみに共に

個あげる」とはコリアの諺だが、日本的大學生は大人しすぎるのではないか。選挙に行き、権利を主張せよ

と言いたい。

スイスでは今年の6月、すべての国民と合法的居住者に基本所得を保障しようという国民投票が実施される。通過すれば、すべての成人が税引き後で月額約30万円、未成年は7万5千円を支給されることになる。夫と妻、子ども2名の標準家庭では、合計75万円の計算になる。世論調査によると賛成派は40%程度で、今回実現するのは難しいようである。今回は難しくとも、いずれ通ること、必至だろう。

AI時代にはワーケーシェアリングの普遍化や大量失業も予想される。学者たちの予測通りなら失業率は50%。社会として耐えられるような数字をはるかに超えていく。AIは人間が幸せになるために開発したはず。一方では知能の高級化を図りつつ、他方では誰でも税金を払えるようない社会の仕組みを作る。AIに対しても、経済的効率性だけではなく、どんな思想でもつてその働いてもらう条件をインプットするかを考える。50%の人口が失業するかも知れない時代には、政治する力は、もは

して、既存の考え方を超えた発想力を育むための「文理」区分の相対化、試行錯誤を通じて学ぶアクティブラーニングの抜本的強化、知識の収集がより容易になっていく中で、「チャレンジ精神」を持ち続けることと、それを受けたアントレプレナーシップ（起業家精神）を持つ人材養成が挙げられている。IBはこのような社会的要請にも十分に応えられる教育プログラムである。

共感力はいつの時代も基礎基本

さて、オックスフォードの同報告書では逆に、代替率の低い職業も提示されている。小学校教員0.4%、社会福祉士0.3%、心理治療士0.2%などである。これらの職業の共通点は対面職業だという点だ。データを分析して判断するのではなく、人に直接会って、耳を傾け、共感するという仕事である。AIといつても、人に対する分野では限界が露呈される。

これらの職業は今までの物差しでは専門性が低く、報酬も少ない。しかし、我々人間が機械と違う点は、その知能ではなく、やはり人間らしさにあるということをいみじくも言っている。他人の悲しみに共に当たっている。他人の悲しみに共に



（文・IB推進部・嚴敏俊）

て いる方法でもある。

最後に、以上において、IB教育について、それがあたかも万能であることを覚える。世の中、そのような魔法の棒はあるはずもない。切磋琢磨。それしかないと思う。

遊びという、無駄を連想する人育ちは自ら発想して能動的に動く人を育てる。世の中を変えるビッグムーブメントはビッグクエスチョンから生まれる。



▲国際バカロレア機構 (IBO) の教員資格を取るために、2014年から毎年8月、東京ワークショップに参加している。



▲IB実施の準備として毎週水曜日放課後、様々な教員ミーティングを続けている。

▲メルセデスベンツが開発した無人自動車。助手席を回転して会議もできる。車内側面はディスプレー画面に利用。

質問力を育てる

人間代表イ・セドルが完ぺきに見えたAIに勝った第4局を見てみよう。イ・セドルは前半、有利に進んだ第2局の棋譜に従つた。アルファ碁は多くの可能な手の中から最も勝率の高い手を選ぶ。当然、第2局と同じ会つて、耳を傾け、共感するという仕事である。AIといつても、人に対する分野では限界が露呈される。

これは常軌を逸した、ある意味、混乱した一手だったという。アルファ碁のデータには入つていなかつたのか。まさに虚をついた一手。イ・セドルの勝利は、常識を覆した型破りから生まれた。イ・セドルは「そこに打

つしかなかった。ほかに手がなかつた」と振り返ったが、3敗で追い込まれたイ・セドルに創造性の高い一歩が生まれたのである。人間にできることは、結局、傾聴と対話、思索の習慣化による。一斉授業の時代遅れ性は明確である。対話と討論を重視するIB教育はこの点でも優位を示す。

本である。AI時代でも変わらない教育の第一目標にほかならない。共感力は結局、傾聴と対話、思索の習慣化による。一斉授業の時代遅れ性は明確である。対話と討論を重視するIB教育はこの点でも優位を示す。

創造性は質問する力から生まれる。質問する力は、興味関心を持つことと質問が許され、奨励さ

れる場の存在が前提になる。IB教育は、学ぶ内容自体や知識の量よりも、学生の知りたい願望、Whyへの関心を大切にする。

IB教育では、あらかじめ決まった教育課程を網羅的に教えることが目標ではない。そ

れで、AIにできない、その決定的な違いはこの創造性にある。